

卒業生のこぼ

宗像看護専門学校

池 悠太郎さん(大村市内中学校出身)

私は、看護師になって患者さんの支えになりたいという夢があり、宗像看護専門学校へ進学しました。

引越した当初は、一人暮らしをしながら看護について学んでいくことに不安を抱えていました。その日から約一ヶ月が経とうとしています。徐々に一人暮らしにも慣れ、学校では周りの人と教え合いながら看護について学んでいます。初めて看護という専門的な学問を学び、毎日の授業内容を理解するのはとても大変です。課題の量も高校とは全く違い、日々、慣れない生活を送っています。けれども、毎日多くの知識や技術を身につけていることに対し、少しずつ夢に近づいているような気もして充実した日々を過ごすことができています。5月には初めての実習もあるため、それまでに必要なことを身につけて実習に臨みたいと思います。そして、自分に足りないところを見つけて出し、それらを学んでいきたいと思っています。

後輩の皆さんの中には、夢を持っている人、又は、そうでない人もいます。私も高校に入学するまでは、明確に決まっていませんでした。ですが、進路学習等で看護師について調べてみることで、なりたいたいと思うようになりました。そこからは目標を立て、勉強に取り組みました。このことから、まずは視野を広げてみて少しでも興味をもったら調べる、そして行動に移すことが大切だと思いました。是非、自分がしたいことを見つけ、それに向かって挑戦してみてください。

株式会社松葉屋

久原 瑞葵さん(山澄中学校出身)

私は以前から人と接する仕事に就きたいと思っていました。まだ本格的な業務には入っていませんが、各店舗の中を見せていただいたり、接客の基本などを教えていただいたりしています。当たり前のことですが、遅刻は厳禁で、無断欠勤はできません。また、接客業ですので、服装や見た目も派手ではいけません。ですが、自分がやりたくて就かせていただいた職業なので、緊張もしていますが、とてもわくわくしています。「同期」と呼ばれる人たちとの出会いや、これから出会う仲間たちのことを思うと、胸が高まります。

就職先を決定するにあたり、高校3年間本当に悩みました。自分がやりたいことは本当に接客なのか、それとも他の仕事にも視野を広げたほうが良いのか、何度も何度も悩みました。皆さんの中にもたくさん悩んでいる方がいると思います。そんな時は、周りの人たちに相談してみてください。先生方、両親、カウンセラーの方もいます。私は、親や先生方に相談して、今、この職に就くことができています。皆さんの周りの方は、私たちが思っているよりもずっと真剣に向き合ってくれるはずですよ。

社会へ出ると、学んでいくだけでなく、一日一日成長しなければなりません。自分のやりたいことを軸とし、高校時代から懸命に頑張ってください。努力して得たものは将来の助けになると思いますし、自分自身を支えてくれるものにもなります。

みなさんを応援しています。